

## 札幌市教育ビジョン

### 1 札幌市の教育が目指す人間像

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われるものです。（※「教育基本法第1条 教育の目的」）

本計画では、札幌市の教育が目指すべき人格、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な姿を、明確かつ簡潔に表現するに当たり、これまでの「札幌市教育推進の目標」の基本的な考え方は、今後10年を見据えたとしても決して色あせるものではないと考え、次のフレーズを「目指す人間像」として掲げます。

## 自立した札幌人

いかに時代が変わろうとも、「人格の完成」に向けては、一人の人間として「**自立**」することが求められます。

「自立」への第一歩は自己肯定感や自己有用感を育むことです。そして、発達段階に応じて、様々な社会体験を通じ、一人の人間として生きる自覚をもつことが大切です。

しかし、この自覚は決して、一人「孤立」して生きることを求めるものではありません。他者を自分と同じ「自立した存在」として尊重し、共に支え合いながら生きていくという「**共生**」の思いを併せ持つことが不可欠であり、その対象は、身近な家族や地域の方々はもとより、同じ時代を生きている世界中の人々、さらには、今の社会を築き上げた先人やまだ見ぬ未来の世代までも含むものです。

本計画では、このように、広く、時や空間を超えた他者との「共生」への願いを込め、「共生」と一体となった幅広い意味をもつ「自立」を「**自立した**」と表現しています。

一方、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」は、時代の変化に伴って変わるものであり、また、同じ時代であっても、地域の状況によって左右されるものです。

今後、人口減少社会の到来や、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小が見込まれる中、これまでの右肩上がりの社会構造を前提とした価値観は大きく変わりつつあり、いわゆるパラダイムの転換が求められています。私たちは、都市の活力と生活の質を高めるとともに、先人が知恵と努力で築き上げてきた、この自然豊かで文化芸術の薫り高いまちを、次世代に良好な形で引き継いでいかなければなりません。

本計画では、このような状況を受け止め、様々な課題解決に果敢に立ち向かっていく資質を有する人間の在り方を「**札幌人**」と表現しています。札幌の豊かな自然や社会や文化の中で、学び、生活した経験をもつ者が、その恵まれた環境の中で育まれる創造力や豊かな心などの総合的な素養を生かし、ふるさと札幌への愛着や誇りを持ち、伝統や文化を尊重しながら、国際的な視野ももって、札幌において、あるいは国際社会を舞台に活躍して行ってほしいという思いが込められています。

すなわち、「自立した札幌人」とは、生涯にわたって、

**未来に向かって 創造的に考え、主体的に行動する人**  
**心豊かで 自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人**  
**ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人**

であり続けることを意味します。

## 2 基本的方向性

今後 10 年を見据えたとき、この人間像を実現するためには、情報化や国際化の進展など社会経済情勢の大きな変化により、多様化や知識の陳腐化が一層進行する状況を踏まえ、学校の卒業をもって「学び」が終了するのではなく、幼児期から生涯にわたって、自ら学ぶ意欲をもち、学び続けることが必要です。

私たちが、自ら生きていく中で「学び」を主体的に捉えることができるよう、学校教育の段階から、連続した学びの体制を整備するとともに、子どもたち一人一人の心身の発達の段階と学校や地域の実態を踏まえ、札幌の自然や社会・文化等の豊かな環境を生かしながら、「学ぶ力ー知」「豊かな心ー徳」「健やかな身体ー体」の調和のとれた「生きる力」を育てていくことが大切です。併せて、学校教育と生涯学習の「学び」の垣根を低くして、子どもから大人までの様々な世代が、地域や社会に主体的に関わりながら、共に学ぶ体験を積み重ねるなどして、「共に生きる力」を培うことが重要となります。

また、私たちが、様々な「学び」に容易にアクセスすることができるよう、いつでもどこでも誰でも、等しく、学びたい時に安心して学べる機会を保障する観点から、「多様な学びを支える環境」を充実させることが必要です。

加えて、教育が人と人との関わりの中で進められる営みであることを踏まえると、真に、この人間像を実現するためには、日々展開される様々な「学び」を通して「社会が人を育み、人が社会をつくる」という好循環を生み出すなど、それぞれのソフトとハードに魂を入れ、実際に回り始める「仕組み」を作り上げることが、大切です。

例えば、世代や立場などが異なる様々な市民が、「学び」を仲立ちとして出会い、そこでの「学び」が人と人とのつながり、いわゆる地域コミュニティの形成、活性化へとつながり、さらに、この地域コミュニティが核となって、次なる「学び」の深化が図られるということなどが想定されます。このように、市民ぐるみで学びを支え合う仕組みを作り上げることで、一人一人の生涯にわたる学びと実践の循環が生まれ、ひいてはまちづくりの活力の源となります。

そして、こうした環境の中で育ち、成長した世代が、自然体で次世代と学びを支え合うようになり、世代間の循環につながることも期待されます。

以上を踏まえて、今後10年間で「自立した札幌人」を実現するため、札幌市は、以下の3つの基本的方向性から教育施策を展開していきます。

### 基本的方向性1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進

変化の激しいこれからの社会にあっては、与えられた情報を短期間に理解、再生、反復する力だけではなく、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、異なる他者と協働したりする能力等が求められています。

また、多様な知識が生み出され、流通し、課題も一層複雑化し、一律の正解が必ずしも見いだされず、自分が社会に必要とされる人間であると感じづらくなっている中であって、自己肯定感をもち、自分の夢を描き、自己の実現に向けて意欲的に取り組もうとする心を養うことが必要です。

そして、生涯にわたり、自分に必要な知識や能力を自ら認識し、それを身に付け、他者との関わり合いや実生活の中で応用し、実践できるような主体的・能動的な力が必要とされています。

本計画では、私たち一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、学校教育と生涯学習における縦の接続と横の連携を強化し、「**自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進**」を図りながら、「自立した札幌人」として必要な資質や能力を育みます。

そのために、幼児期から初等中等教育段階の学校教育においては、「**学ぶ力ー知**」「**豊かな心ー徳**」「**健やかな身体ー体**」の調和を図りながら「**生きる力**」を育むため、主体的に学ぶ意欲につながる「**自ら学ぶ喜び**」や、孤立することなく他と関わりながら自立しようとする意欲につながる「**共に生きる喜び**」を、それぞれ実感できるような教育を推進していきます。

併せて、どこにあっても、ふるさと札幌への思いを心に刻みつつ、国際的視野を持って活躍できるよう、自らのアイデンティティーとしての「**ふるさと札幌のよさ**」を実感しつつ、「**豊かな創造力を育む**」教育を推進していきます。

また、生涯学習の観点からは、子どもから大人までの市民が、自ら学ぶことや相互の学び合いを支援・促進することを通じて、学びを媒介とした人と人とのつながりや支え合いの豊かな関係性を創出するとともに、学びの成果を地域や札幌のまちづくりに活かすなど、継続的・自発的な学習活動を支援する総合的な施策を推進していきます。

そして、これらの教育施策の展開にあたっては、とぎれのない一貫性・連続性のある学びを実現するための学びの場の連携と、共生社会の形成に向けた障がいのある方々の社会的自立を目指した特別支援教育の推進を図っていきます。

### 基本的方向性2 多様な学びを支える環境の充実

子ども一人一人の能力を伸ばしつつ、社会において自立して生きる基礎を培うにあたっては、安心して学ぶことができる学校教育の環境整備は不可欠であり、また、生涯学習社会における豊かな学びの保障のためには、多様な学びの環境が整備されることが基本的に保障されなければなりません。

「自立した札幌人」の実現に向けて、基本的方向性1「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を行うにあたっては、私たち一人一人が、多様なニーズに応じた学びの機会を得ることが

できるよう、各成長段階での良質な教育の機会の保障の観点から、「**多様な学びを支える環境の充実**」を図ります。

そのために、まずは子どもたちの学びの中心である学校において、安心して信頼される体制づくりに努めるとともに、自然環境や機能性などにも配慮した安全・安心な施設整備などを行っていきます。

併せて、札幌市全体の子どもたちの学びを支える観点から、豊かな質の高い教育環境の構築を行っていきます。

生涯学習の観点からは、あらゆる市民に生涯にわたって学ぶ機会を提供できるよう、多種多様な学習活動を支える生涯学習施設や市立図書館などの充実を図ります。

また、環境整備は、ハードを中心とする側面だけではなく、子どもたちに対する様々なサポート体制なども必要となります。

子どもたちにとって学校での身近な存在である教職員について、教育指導の意識と技術を継承、発展させるとともに、個々の教職員がそれぞれの資質・能力を高め、それを十分に発揮し、子どもたち一人一人に寄り添い、健やかな成長を支えていけるような取組を充実させていきます。

さらに、いじめや不登校を始め、様々な要因により学校での学びに困難を抱える子どもたちに対しては、安心して学べる多層構造の支援体制を構築する観点から、学びのセーフティネットの充実を図っていきます。

### **基本的方向性3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり**

人口減少と少子高齢化が進行し、社会への参加意識の低下や人間関係の希薄化などの課題が指摘される一方、東日本大震災を契機に地域コミュニティの重要性が見直されている中にあるのは、学校・家庭・地域がそれぞれの教育力を高め、共に手を携えていくことがますます重要となっています。

現在、札幌市では、年間1万4千人以上の市民が様々な形でボランティアとして学校の教育活動に参画するとともに、子どもたちが地域の活動に参加する取組も進められています。今後より一層、学校・家庭・地域が実効性のある双方向の連携を図り、学びを通じたコミュニティの形成を積極的に進めていく必要があります。

「自立した札幌人」の実現に向けて、基本的方向性1「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」を行うにあたっては、私たち一人一人が、「学び」を仲立ちとして相互に連携・協力するとともに、この関係性が市内各所で定着して学びのコミュニティが形成されるよう、「**市民ぐるみで支え合う仕組みづくり**」に取り組みながら、全ての市民が「自立した札幌人」として必要な資質や能力を高めていくことが肝要です。

そのために、商店街や企業などを含む地域の方々の学校教育への参画を促すとともに、地域の潜在的な教育力を発掘し、学校教育に生かしたり、子どもたちの地域活動への興味・関心を高め、参加を促進する環境整備を進めたりするなど、学校と地域が相互に結びつき、支え合う仕組みを整えます。

また、子どもの育ちや学びに重要な役割を果たす家庭の教育力が、家族形態や社会構造の変化に伴い低下している現状に鑑み、地域や学校が家庭を支える仕組みづくりに取り組むなど、全て

の家庭が、地域や学校と共に、札幌市の教育を支える主体の一つとしての力をつけていくことができるよう努めます。

## 札幌市の教育が目指す人間像



## 基本的方向性

自ら学び、共に生きる力を培う

**学びの推進**

多様な学びを支える

**環境の充実**

市民ぐるみで支え合う

**仕組みづくり**